

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990100634		
法人名	社会福祉法人 協同福祉会		
事業所名	あすならホーム今小路 グループホーム		
所在地	奈良県奈良市今小路町29-1		
自己評価作成日	令和2年3月21日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	/www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_023_kani=true&JigyosyoCd=2970106593-00&ServiceCd=430&Type
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良市高円町48番地6 森田ビル5階
訪問調査日	令和2年4月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

最期まで自分らしく安心して暮らし続けられるよう「あすなら10の基本ケア」に沿って支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人がめざす『地域包括ケア』の実践の1拠点として、多機能型ケアホーム(小規模多機能居宅介護)に続き、昨年6月に開設されたグループホームである。法人理念と『10の基本ケア』をふまえ、各利用者に合わせた普通の生活をすべく支援を日々実践に努めている。併設の多機能型ケアホーム、地域支援事業としてあすならサロン、ランチ企画、移動店舗などに地域住民が多く訪れ、利用者との交流の機会が多くある。開設間もないこともあり、体制が確立しているとは言い難い面もあるが、真摯な管理者の下、利用者家族、地域、職員が一丸となって取り組んでいる姿勢は今後を期待できる事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「大切にしたい7つの事」を掲げ、会議や学習会を通して理念の共有を行っている。	法人の基本理念を玄関や会議室に掲げている。独自の「あすなら10の基本ケア」を基本として、職員に周知すべく法人研修や事業所での学習会、日々の業務の中でも伝達されている。	法人理念及び「あすなら10の基本ケア」を職員に浸透させるために、新規採用時1ヶ月間の集中研修を行い、以後も全員参加の毎月の学習会、非正規社員にも行われる法人研修などで周知を図っているが、職員の一部には理解不足が見られ、管理者の根強い指導力を期待する。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ケアプラン目標に外出を入れるなど日常的に地域に外出することで社会性を保つように支援している。地域サロンには毎日15名ほど来られ、利用者とともにリハビリ体操を行っている。	事業所はグループホームだけでなく、多機能型ホームや地域交流の場もあり、毎朝の体操、コーヒーサロン、学習会、移動店舗などが定期的であり、地域福祉の拠点となっている。また自治会に参加して回覧板が回ってきたり、地域や神社の清掃にも参加している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護保険や認知症、10の基本ケア等地域住民が知りたい内容について「地域学習会」を地域住民向けに行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議では、利用者家族・地域包括職員・地域の代表が参加し現在の介護状況を報告している。小規模多機能は運営推進会議で「サービス評価」を行っている。	運営推進会議は、まちかどネット代表、地域包括支援センター職員、協力診療所事務長、利用者、家族などの参加で、多機能型ケアホームと合同で2ヶ月毎に開催している。会議では現況報告や活動報告、法人からの報告を行っている。利用者家族が多く参加している。グループホームだけの意見交換の時間も設けている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政が開催する集団指導・会議・行事に参加している。	法人独特の運営方針を基に事業を展開しているが、市主催の会議や行事にも積極的に参加している。事故報告や困難事例など、その都度市担当者と話し合い連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や研修で身体拘束について学習し運営推進会議で報告を行っている。	身体拘束について、法人全体の研修会や事業所ごとの学習会を年12回以上行い、全職員が1回以上は学んでいる。また、別のテーマでの研修会や学習会であっても最終的に身体拘束に関連付けられた内容となる事もある。開設以来身体拘束を行った事例はない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修で虐待について学習し運営推進会議で報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・計画作成担当者は日常生活自立支援事業や成年後見制度について学習・理解している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書には十分な時間をかけて説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族面会時に情報交換を行い、朝礼や会議等で情報共有を行っている。	多くの家族の訪問が頻回にあり、運営に協力的な家族や真摯に意見を述べる家族も多く、運営に活かしている。家族の訪問時や運営推進会議で積極的に意見交換を行い、苦情には管理者が出来る事、出来ない事を丁寧に説明し、理解を得る対応をしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善会議や朝礼、夜勤者会議や医務会議、個別面談等で意見や提案ができる機会を設けている。	管理者は職員の意見などを朝礼時や月1回の業務改善会議で聴いており、また年2回行う個別面談で職員の意見や要望を聴く機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回管理者・リーダーと職員との考課面接を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職後には手引きシートを使った集中的な入社教育を、職員には職員学習会や法人内研修を、必要に応じて外部研修を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内関係者の研修会や交流会に参加して情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅に伺い、馴染みの物や家具の配置をアセスメントに入れています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で家族さんの困っていることを聞く機会をもっている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅訪問時に要望を聞き、支援内容を確認するようにしている。一方的に入居を進めず別のサービスについても説明と提案を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備・配膳・下膳・洗濯物干しやたたみなどを一緒に行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会回数の制限は行わず、できる限り来ていただくようにしています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の面談時に馴染みの場所や人物の把握を行っている。	利用開始前に自宅を訪問し、本人や家族から馴染みの関係の情報を聴き取っている。使い慣れた馴染みの家具などをホームに持ち込みを勧めている。家族や身内の訪問が多く外食や外泊する方、年賀状のやりとりなど関係継続に家族が協力的である。携帯電話で連絡をとる方や、地域の美容室が馴染みとなっている方もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る席の配慮はもちろんだが、入居者同士で関わりを持てるよう職員が間に入って支援を行っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても運営推進会議参加やつながり支援、まちかどネットでの関わりを持つよう促しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話で本人の思いや希望を聞き取り、アセスメントやケアプランに反映している。	行きたい所、食べたい物など利用者の思いを出るだけ叶える支援を重視している。入浴時はゆっくりと話が聴ける時間と捉えているが、収集した情報の記録を取ったり取らなかったりとばらつきが見られる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅訪問時に生活歴や部屋の配置を確認している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「支援経過」「介護計画書」を用いて、本人の心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議には本人・家族さんにできる限り参加をしてもらい、要望や意向を聞いて介護計画書やケアプランを作成している。	家族も参加してのケア会議を原則6ヶ月ごとに行い、介護計画を見直している。介護計画表はとてもしっかりと作成している。利用者の思いを重視した長期目標を立て、短期目標へと展開させているが、一部に見直しが必要なのではと感じる部分が見られた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「支援経過」「介護計画書」で職員の情報共有を行っている。日々変わる状態に基づいて必要時には計画の見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅に帰るための支援や外出、通院支援等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の美容室や移動店舗での買い物、地域の清掃活動参加を行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にはかかりつけ医の確認を行い、本人や家族さんの望む医療を提供している。	事業所の協力医師が訪問診療を行っており、ほとんどの利用者がかかりつけ医としているが、以前からのかかりつけ医の往診を受ける方や通院する方もある。歯科医師の随時の往診もある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良があれば医療職と連携を随時行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	奈良市入退院連携マニュアルに沿って病院関係者と情報交換や退院情報提供を行っている。入院時には定期的に面会に行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取り及び重度化対応指針・ターミナルケアの意向伺い書を説明するとともに同意を頂いている。重度化したときは本人・家族の思いを再確認し、主治医・看護師・介護士と連携しながら対応をしている。	『あすなら10の基本ケア』に「ターミナルケアをする」が組み込まれており、利用開始時に本人と家族に説明し、同意書を作成している。急変時の対応、AEDの使用方法、看取りについて基本的な研修を行っている。開設後10ヶ月あまりで、事業所での看取りの事例はない。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会で救命処置の学習と実践(AED・心肺蘇生等)を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	年2回の消防避難訓練や防災食対応(ローリングストック)を行っている。職員は非常時行動携帯マニュアルを所持している。	避難訓練を年2回地域の方と一緒に事業所全体で行い、うち1回は夜間想定避難訓練を実施している。法人が運営する『まちかどネット』や事業所から地域の活動へ参加など支援体制も構築できている。昨年の台風22号上陸の時は近所の高齢者を避難所として受け入れた。水や食料は2日分、食器、毛布、洗剤などを備蓄し、非常時には「ならこーブ」からの支援も期待できる。	夜間は、グループホームと多機能型ケアホーム合わせて夜勤者は3名であり、手薄な時間帯の非常発生時に備えて取るべき行動手順等をマニュアル化するとともに、避難訓練の実施を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	学習会で一人一人の人格を尊重するような行動・言葉かけをするよう教育している。	各利用者ごとに合わせた行動を学習会で指導している。利用者への呼びかけは、原則として苗字に「さん」付けとしている。日常生活支援の場では職員同士の私語を厳禁としている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホーム内では自由に行動してもらい、希望があればできる限り実現できるよう配慮している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ごせるよう配慮しているが、職員配置上無理な時もある(急な外出、介護拒否)。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝・夕方には着替えをしてメリハリをつけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくりや盛り付け等出来ることは一緒に行っている。暖かい食事を職員も一緒に会話しながら食べている。	食事は給食業者が納入するクックチルドの調理済みの主菜を温め盛り付けし、ご飯と味噌汁は職員の手作りで提供している。また、職員も利用者と同じものを一緒に食べ食事を楽しんでいる。行事食や季節感のある食事は給食業者に委託しているが、イベントや誕生日祝には、利用者の希望を聴き、職員が手作りしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせて食事量や水分量を決め、記録を行っている。摂取量不足の時は、声掛けや本人の好きな物等工夫して行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。状態に応じて訪問歯科診療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にはオムツを使用していないが、本人の状態に合わせて支援内容を変更している。	「トイレに座る」は基本ケアの一つであり、夜間は紙パンツ使用の方もいるが、昼間は全員が布パンツ対応であり、おむつゼロを原則としている。退院直後、排泄自立度が下がっており、大きな尿取りパットから小さくしていくなど排泄ケアを工夫している。2ヶ所ある共用トイレの手すり等の位置を片方は右側に、片方はと左側に設置して、左右片麻痺の方でも選択できよう工夫がされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好物の飲み物や食べ物での摂取や適度な運動・体操を毎日行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週に2回、家庭浴槽でゆっくり入浴している。	浴室は広く明るく、浴槽は檜作りで脱衣室は畳敷きとなり温かみを感じられる。入浴は基本週2回、午後1時から4時とし、利用者とゆっくり会話をしながら、意向などを引き出し、記録するとともに、介護計画に活かすこともある。ゆず湯やしょうぶ湯で季節の入浴を楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分の部屋で過ごしてもらい、共用のソファで休憩する等その人が希望される時間にできるだけ対応できるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認を行い服薬後の状態変化の確認を行っている。変化があれば医療関係者と連携して対応を決めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の役割づくりとして、できる事は本人にしてみたい、できないところだけを支援している。日中の本人との関わりを通じて喜びの共有を行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に沿ったケアプランを作成し実現しているが、状況によっては本人希望が叶えられない時もある。	天気の良い日は、少なくとも週に1～2回は外出できるよう努め、近辺に東大寺の転害門があり、散歩に出かけている。現在は新型コロナウイルスの感染予防で外出を自粛しているが、事業所内は自由に行動できるようにしている。家族と一緒に外出や外出に出かけるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所での立替金になるが、移動店舗やヘアカット等希望に応じて対応している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば事業所の固定電話で本人から家族さんへ連絡をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は畳や木材を多用して家庭的な雰囲気を作っている。	食堂兼居間は広くて明るく畳敷きになっている。高低差を付けた六角テーブルに、各利用者の身長に合わせた高さの異なる椅子で食事がとりやすい姿勢が保たれている。2つ並んだトイレは車椅子対応で、右片麻痺の方、左片麻痺の方のために、手すり等を左側用と右側用にそれぞれ設置している。男性用小便器も設置している。床は木製フローリングと畳、壁は白壁に板目調、天井には装飾梁があり気品ある和調空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の手作りの物や共同で使えるソファ等快適に過ごせる環境づくりを行っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、自宅で使っている家具を持ってきてもらい居心地よく過ごせるようにしている。	居室は、個性ある表札、入り口は木製引き戸か障子風建具、床は畳敷きか板の間で、ベッド、洋服ダンス、手が付けるタンス、エアコン、カーテンが既設されている。持ち込んだ馴染みの家具などの配置を元の自宅での生活に近い部屋作りを支援している。叙勲の額や自慢の魚拓、手芸品、蒔絵の小物入れ、椅子や衣類ケースなどを持ち込みそれぞれの部屋作りがされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の身体に合わせた机・椅子・ベッドを使う事で安心・安全に過ごせるようにしている。		